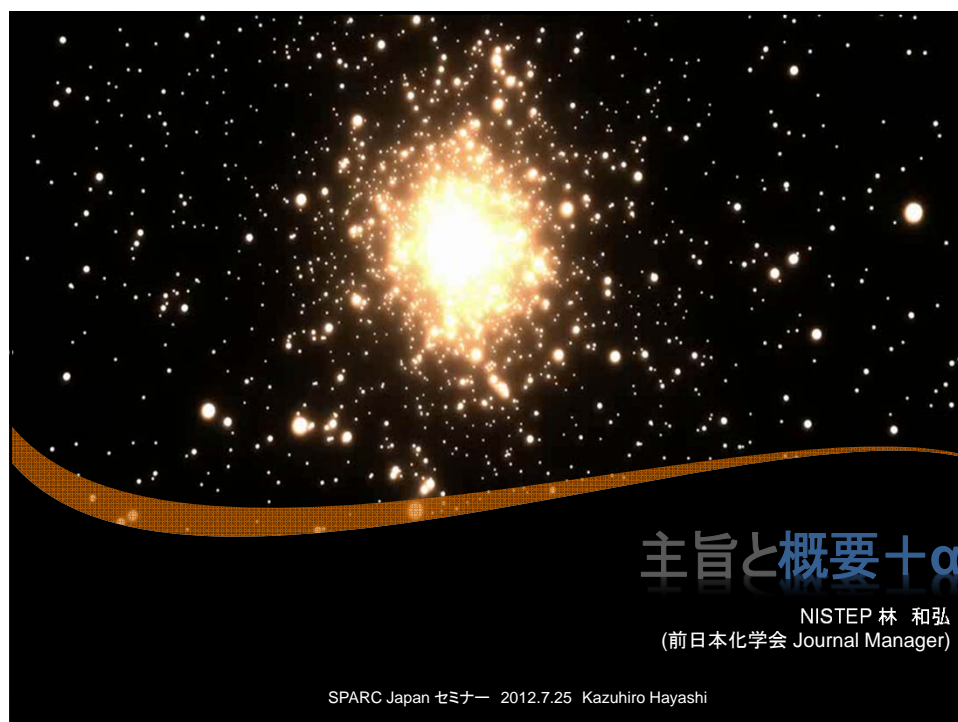




「平成25年度 科学研究費補助金
(研究成果公開促進費)改革」

第3回 SPARC Japan セミナー2012
平成24年7月25日(水)


SPARC Japan セミナー 2012.7.25 Kazuhiro Hayashi



主旨と概要 α

NISTEP 林 和弘
(前日本化学会 Journal Manager)

SPARC Japan セミナー 2012.7.25 Kazuhiro Hayashi



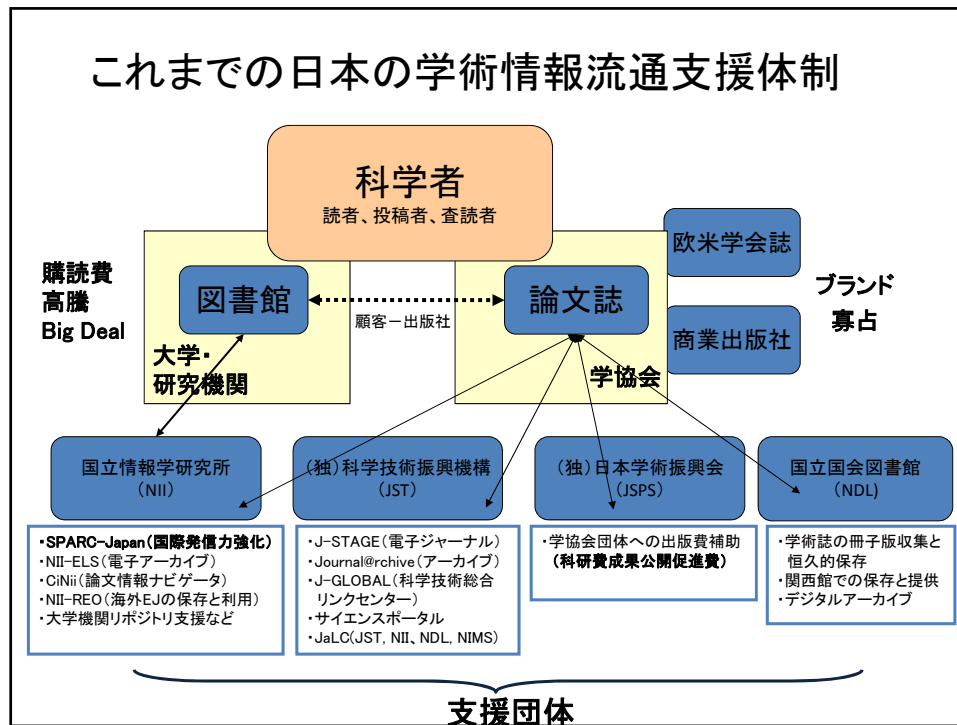
平成25年度 科学研究費補助金 (研究成果公開促進費)改革

背景と現状

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会の議論の要点

- 学術情報基盤の整備は(いつでも)不可欠
- ITインフラ、電子ジャーナルを前提とした情報流通づくり
- オープンアクセス対応の重要性

- 日本の研究レベルと、情報発信レベルの乖離
- 電子ジャーナルの育成、世界をリードする国際発信拠点化が遅れている
- オープンアクセスへの実証的対応も遅れている



本日の目的

- 科研費成果公開促進費新体制の最新状況 (特に運用体制)を知る。
- 事例を聞き、議論を交わすことで、
 - 応募対象者 (発行者) は応募の対策に役立つ。
 - 応募対象支援者 (パートナー) は応募対象者と共に考える。
 - その他関係者はこの変革を肌身で感じとる。

本日の演者

- ◆ 小山内 優: 学術定期刊行物助成制度(科学研究費補助金: 研究成果公開促進費)改革の方向について
- 新しい制度設計の内容と運用体制(応募、審査)の紹介
- ◆ 山下 和子: 学会ジャーナルのプロモーション活動: 報告とこれから
- 学協会連携の意義と必要性を事例から
- ◆ 菊池 誠: 科学基礎論学会における欧文誌刊行の現状と問題点
- 人文社会学系学会における欧文誌刊行の現状と改革への取り組み

SPARC Japan セミナー 2012.7.25 Kazuhiro Hayashi

国際情報発信力強化

A Typical STM Journal in Japan

20-30学会程度のプロファイリングから見える像

- その学会の看板英文ジャーナル
- 日本ではその分野を代表
- 世界でも知名度は中程度以上であるが、トップジャーナルではない
- 編集委員、審査員は日本人が多い
- 日本の先生(会員)からの投稿には偏りがある(出す先生と、出さない先生) [終了後追記: 日本の雑誌を引用しない]
- 海外からの投稿も電子投稿で増えたが、実入り(掲載)が少ない
- 論文誌事業で「稼ぐ」ことが難しい
- 冊子は売っているが、電子ジャーナルはフリー(OA)

SPARC Japan セミナー 2012.7.25 Kazuhiro Hayashi

国際発信力強化と言えそうなこと

- 編集: 編集委員、審査員の国際化と強化/英文コンテンツの質の向上(Language Editing)/有力な研究者とのネットワークづくり
- 制作: 国際標準的な電子ジャーナルサービスを実現できる出版体制(速さとコストにおいて効率の良いメタデータ(XML)作成)
- 公開: 適切なプラットフォーム選び、ないしはその強化によるビジビリティの向上
- 広報: 図書館、研究者に対する気づきの仕組みとネットワークづくりによる信頼関係(ブランディング)づくり
- ビジネス: 事業を回し、改善のための投資を含む資金繰り/提携出版社との交渉

SPARC Japan セミナー 2012.7.25 Kazuhiro Hayashi

得られるアウトプット

- 高いビジビリティ
 - EJアクセス数の向上
- 高いインパクト
 - 知名度の向上
 - Impact FactorやScimargo等の雑誌指標のアップ
 - Altmetrics
- 事業性の改善
- 科学者に対する信頼の獲得
 - その情報を得ることで自分の研究に役立つ場
 - そこに安心して研究成果を出せ、一定の見返りが期待できる場の構築

SPARC Japan セミナー 2012.7.25 Kazuhiro Hayashi

オープンアクセス

- 実質的にGold OA化(雑誌自体がOA化)が支援対象
- ビジネスモデル(収入)は、著者支払い(APC Article Processing Charge)、会費充当、広告くらい
- 支援期間内の活動内容と支援終了後の事業性の担保
- 購読費モデルからの転換はどうするか

- OAメガジャーナル化の道はないのか
- OAメガジャーナルプラットフォームへの参入はありなのか

- 支援(お金)のためにOA化では本末転倒
 - なぜOAにするのか

SPARC Japan セミナー 2012.7.25 Kazuhiro Hayashi